

坂出市学校再編整備実施計画

～前期概ね5年程度～

令和6年5月

坂出市教育委員会

目 次

| | |
|----------------------------|----|
| 1. はじめに | 1 |
| 2. 学校再編でめざす学校づくりについて | 1 |
| (1) 本市がめざすこれからの教育 | |
| (2) 義務教育9年間を見通した教育(小中一貫教育) | |
| (3) 学校の適正規模 | |
| 3. 再編対象校の現状について | 3 |
| (1) 小学校区毎の年齢別人口 | |
| (2) 再編対象校の児童・生徒数、学級数 | |
| (3) 再編対象校の施設状況 | |
| 4. 学校再編整備の方針について | 7 |
| (1) 再編新校での小中一貫教育 | |
| (2) 再編新校の組み合わせ | |
| (3) 再編新校の設置場所 | |
| (4) 再編新校の校舎建設について | |
| (5) 再編新校の学校施設のコンセプト | |
| (6) 再編にあたっての留意事項等 | |
| 5. おわりに | 10 |

1. はじめに

全国的な少子化が進む中で、坂出市教育委員会では、平成19年度に「坂出市学校再編整備検討委員会」を設置し、平成20年度に「坂出市学校再編整備実施計画」を取りまとめました。計画策定後は、西部小学校と中央小学校および沙弥小学校の統合による、坂出小学校校舎の新築や、王越小学校の松山小学校への統合が行われました。しかし、計画期間中の児童・生徒数の減少が緩やかだったこともあり、後期の再編計画および将来の再編構想については、関係者へのヒアリングを行い、当面の間、実施しないこととしていました。しかしながら、近年の本市における出生数を鑑みると、少子化に歯止めがかからない状況となっており、学校施設（校舎等）の老朽化問題等、本市を取り巻く環境は、当初計画の策定期間から大きく変化しました。

このことから教育委員会としては、令和3年7月29日に「坂出市学校再編整備検討委員会」に対して、「坂出市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方について」および「坂出市立小・中学校の再編整備の具体的な方策について」の諮問を行い、本市の望ましい教育環境の将来像について議論を重ね、令和4年10月19日に同検討委員会から答申書が提出されました。

この答申を受け、「坂出市学校再編整備庁内推進委員会」において、答申で示された学校再編整備の具体的方策のうち、前期（概ね5年程度を目途）の東部小学校、金山小学校、西庄小学校および東部中学校の再編構想に関して協議し、関係団体、地域住民、保護者等の関係者には説明会を開催し、今回の学校再編整備についてご理解をいただきました。

以上の経緯を経て、今回、前期概ね5年程度を目途とする学校再編整備実施計画を策定しました。

なお、計画の実施に当たっては、今後も保護者や地域住民の皆様のご理解とご協力を得ながら、学校再編整備を進めることとします。

2. 学校再編でめざす学校づくりについて

(1) 本市がめざすこれからの教育

～新たな価値を創造し、ともに確かな未来を切り拓く人づくり～

近年では、人工知能（AI）^{注1}や情報通信技術（ICT）^{注2}といった技術が高度に発展し、それらがあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0^{注3}と言われる超スマート社会の到来により、社会のあり方が急激に変化してきました。そのような時代を生き抜く子どもたちには、多様な他者と協働し、豊かな創造性を備え、常に新たな価値を追求していく持続可能な社会の創り手となることが求められています。

そのためには、誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」を保証し、すべての子どもたちに、互いを尊重し対話を通してよりよいものを創造していこうとする「協働的な学び」に向かう力を育むとともに、ふるさと坂出で生まれ育ったことに愛着と誇りをもち、自分の良さや可能性を見出し、自立と夢の実現にチャレンジし続ける人づくり・未来を切り拓く人づくりをめざします。

※文中で「注」を付した用語は、用語集で解説しています。

(2) 義務教育9年間を見通した教育(小中一貫教育)

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現～

本市がめざす学校教育のためには、多様な人との交流や関わりを深め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めていくとともに、義務教育9年間の学習指導や生徒指導の全体像を把握し、小・中学校が協力・連携して取り組むことが重要です。

そのために、小中一貫教育を導入し、①義務教育9年間を見通した学校教育目標やめざす児童・生徒像を設定・共有し、②系統性・連続性を強化した教育課程を編成・実施することを通して、③児童・生徒の様々な背景や課題に対応し、教育の質を高めていきたいと考えます。

<小中一貫教育が求められる背景>

- ・ 「令和の日本型学校教育^{注4)}」の実現
- ・ 児童・生徒の様々な成長の段差への適切な対応
- ・ 社会性育成機能の強化
- ・ 学校課題の多様化・複雑化への対応

<期待できる効果>

- ・ 系統性と連続性を重視した柔軟なカリキュラムで教育の質が高まる。
- ・ 教職員同士での児童・生徒の情報を共有した、継続的な指導・支援ができる。
- ・ 成長の段差や小中ギャップ^{注5)}の緩和が可能となる。
- ・ 人間関係が広がり様々な異学年交流が可能となり、社会性や自己有用感が育まれる。
- ・ 教師の専門性を生かすとともに、小中教職員間の協働意識と協力体制が強固になる。

(3) 学校の適正規模

学校の適正規模については、学校教育法施行規則において小・中学校ともに「12学級以上18学級以下を標準とする」とされています。この基準によると、再編対象校である金山小学校および西庄小学校、東部中学校は小規模校となっています。本市では、教育は一定規模以上の集団で行うことを基本として、様々な人間関係を通じて、児童・生徒が互いに切磋琢磨し、社会性や協調性を培っていくことで、学校機能を最適な状態で発揮できるという考えのもと、学校再編を進めていきます。

昭和59年文部省の資料「これからの学校施設づくり」による学校規模の分類

| 学校規模 | 過小規模 | 小規模 | 適正規模 | 学校統合の場合の適正規模 | 大規模 | 過大規模 |
|------|------|------|-------|--------------|-------|------|
| 学級数 | 1～5 | 6～11 | 12～18 | 19～24 | 25～30 | 31以上 |

3. 再編対象校の現状について

(1) 小学校区毎の年齢別人口

令和5年4月1日時点の坂出市住民基本台帳によると、令和5年度の小学生（6歳～11歳）は2,355人、令和11年度の小学生（0歳～5歳）は1,771人となっており、令和5年度より584人減少しています。

年齢別人口の最多は75歳の1,188人、2番目は74歳の1,111人ですが、昨年生まれた0歳は243人であり、少子高齢化が進んでいることが伺えます。

小学校区毎の年齢別人口（0歳～15歳）

住民基本台帳人口（令和5年4月1日時点）

| 校区 | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 坂出 | 55 | 77 | 66 | 79 | 78 | 86 | 114 | 94 | 120 | 89 | 110 | 112 | 123 | 106 | 117 | 99 |
| 東部 | 36 | 51 | 39 | 55 | 56 | 52 | 48 | 65 | 59 | 59 | 49 | 58 | 53 | 75 | 81 | 69 |
| 金山 | 28 | 32 | 27 | 29 | 30 | 32 | 32 | 36 | 39 | 40 | 37 | 38 | 43 | 35 | 38 | 54 |
| 西庄 | 8 | 6 | 7 | 4 | 8 | 6 | 3 | 1 | 5 | 8 | 11 | 3 | 10 | 11 | 12 | 16 |
| 林田 | 43 | 38 | 34 | 45 | 42 | 48 | 53 | 60 | 56 | 71 | 46 | 65 | 66 | 41 | 62 | 58 |
| 加茂 | 18 | 18 | 21 | 23 | 18 | 29 | 29 | 34 | 30 | 29 | 29 | 38 | 33 | 38 | 28 | 34 |
| 府中 | 7 | 16 | 12 | 18 | 16 | 15 | 26 | 18 | 30 | 20 | 26 | 21 | 32 | 25 | 30 | 29 |
| 川津 | 42 | 49 | 51 | 46 | 48 | 43 | 52 | 39 | 42 | 65 | 53 | 46 | 50 | 47 | 56 | 54 |
| 松山 | 6 | 13 | 14 | 20 | 18 | 13 | 31 | 22 | 23 | 23 | 20 | 27 | 30 | 36 | 37 | 27 |
| 岩黒 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 243 | 300 | 271 | 319 | 314 | 324 | 388 | 370 | 404 | 404 | 381 | 408 | 440 | 414 | 461 | 440 |

(2) 再編対象校の児童・生徒数、学級数

再編対象となる小学校3校の直近10年間の児童数の推移は下記のとおりです。

令和5年5月1日の児童数はこの10年間で、東部小学校は29.2%の減少、金山小学校は38.8%の減少、西庄小学校は59.7%の減少となっています。

令和5年度の児童数を適用した場合、3校を再編整備することにより、児童数472名となります。この児童数から学級数を算出すると、学級数は17学級となり、1学年3学級程度の再編新校（国の分類では適正規模）が可能となります。

10年間の児童数・学級数の推移（毎年度5月1日時点）

| 校名 | 区分 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東部小学校 | 児童数 | 455 | 452 | 438 | 405 | 391 | 382 | 362 | 347 | 328 | 322 |
| | 学級数 | 16 | 16 | 16 | 14 | 14 | 15 | 14 | 13 | 12 | 12 |
| 金山小学校 | 児童数 | 201 | 192 | 175 | 183 | 175 | 170 | 156 | 147 | 142 | 123 |
| | 学級数 | 8 | 7 | 7 | 8 | 7 | 7 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 西庄小学校 | 児童数 | 67 | 67 | 62 | 58 | 51 | 54 | 53 | 45 | 34 | 27 |
| | 学級数 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |

令和5年度学年別児童数（令和5年5月1日時点）

| 校名 | 区分 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 合計 |
|-------|-----|------|------|------|------|------|------|--------|
| 東部小学校 | 児童数 | 45 | 58 | 60 | 49 | 51 | 59 | 322 |
| | 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 |
| 金山小学校 | 児童数 | 11 | 19 | 24 | 24 | 24 | 21 | 123 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 西庄小学校 | 児童数 | 2 | 1 | 2 | 9 | 9 | 4 | 27 |
| | 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 合計 | 児童数 | 58 | 78 | 86 | 82 | 84 | 84 | 472 |
| | 学級数 | 4(2) | 4(3) | 4(3) | 4(3) | 4(3) | 4(3) | 24(17) |

※()内は、3校を再編整備した場合、児童数から算出される学級数。

令和11年度の児童数と学級数の3校合計予測値

| | 区分 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 合計 | 児童数 | 64 | 77 | 64 | 78 | 83 | 79 | 445 |
| | 学級数 | 2 | 3 | 2 | 3 | 3 | 3 | 16 |

※令和5年4月1日時点の年齢別住民基本台帳の0歳～5歳の人数から、各校区の令和5年度の附属小学校の進学率より算出した人数を差し引いた予測値。

東部中学校の直近10年間の生徒数の推移は下記のとおりです。

令和5年5月1日の生徒数はこの10年間で、10.1%の減少となっています。

10年間の生徒数・学級数の推移（毎年度5月1日時点）

| 校名 | 区分 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東部中学校 | 生徒数 | 257 | 265 | 276 | 286 | 270 | 245 | 246 | 256 | 253 | 231 |
| | 学級数 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 8 |

令和5年度学年別生徒数（令和5年5月1日時点）

| 校名 | 区分 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東部中学校 | 生徒数 | 63 | 78 | 90 | 231 |
| | 学級数 | 2 | 3 | 3 | 8 |

また、金山校区から坂出中学校に通う生徒と、西庄校区から白峰中学校に通う生徒を現東部中学校に加えた場合、再編による生徒数・学級数は次のとおりとなります。

再編による生徒数・学級数（令和5年5月1日時点）

| 校名 | 区分 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 合計 |
|-------|-----|--------|--------|---------|---------|
| 東部中学校 | 生徒数 | 86(23) | 96(18) | 105(15) | 287(56) |
| | 学級数 | 3 | 3 | 3 | 9 |

※()内は、金山校区から坂出中学校に通う生徒と、西庄校区から白峰中学校に通う生徒の人数。

令和11年度の生徒数と学級数の予測値

| 校名 | 区分 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東部中学校 | 生徒数 | 73 | 92 | 92 | 257 |
| | 学級数 | 3 | 3 | 3 | 9 |

※令和5年4月1日時点の年齢別住民基本台帳の6歳～8歳の人数から、各校区の令和5年度の附属中学校の進学率より算出した人数を差し引いた予測値。

(3) 再編対象校の施設状況

坂出市学校施設長寿命化計画（令和2年度策定）に示すとおり、再編対象校の施設は全て築30年以上となっており、築60年を超える教室棟もある状況となっています。

校舎の基本情報（令和2年度「坂出市学校施設長寿命化計画」より）

※築年数欄は令和2年時点の年数

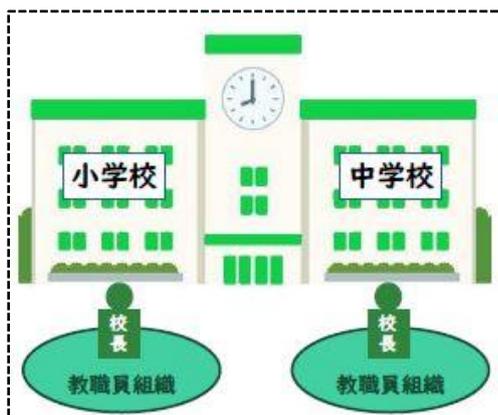
| 建物基本情報 | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|----------|-----------|------|------|----|----|-----------------------|------|-----|-----|
| 学校調査番号 | 施設名 | 建物名 | 棟番号 | 用途区分 | | 構造 | 階数 | 延床面積(m ²) | 建築年度 | | 築年数 |
| | | | | 学校種別 | 建物用途 | | | | 西暦 | 和暦 | |
| 145 | 東部小学校 | 管理棟及び教室棟 | 002-1、2 | 小学校 | 校舎 | RC | 3 | 1,607 | 1957 | S32 | 63 |
| 145 | 東部小学校 | 教室棟 | 008-1、2、3 | 小学校 | 校舎 | RC | 4 | 2,578 | 1979 | S54 | 41 |
| 145 | 東部小学校 | 屋内運動場 | 012 | 小学校 | 体育館 | RC | 1 | 923 | 1991 | H3 | 29 |
| 147 | 金山小学校 | 教室棟 | 002-1 | 小学校 | 校舎 | RC | 1 | 261 | 1968 | S43 | 52 |
| 147 | 金山小学校 | 教室棟 | 002-3 | 小学校 | 校舎 | RC | 2 | 534 | 1982 | S57 | 38 |
| 147 | 金山小学校 | 管理棟及び教室棟 | 003-1 | 小学校 | 校舎 | RC | 3 | 894 | 1979 | S54 | 41 |
| 147 | 金山小学校 | 屋内運動場 | 008 | 小学校 | 体育館 | RC | 1 | 639 | 1986 | S61 | 34 |
| 147 | 金山小学校 | 教室棟 | 009 | 小学校 | 校舎 | RC | 2 | 647 | 1987 | S62 | 33 |
| 157 | 西庄小学校 | 管理棟及び教室棟 | 002-1、2 | 小学校 | 校舎 | RC | 3 | 1,753 | 1980 | S55 | 40 |
| 157 | 西庄小学校 | 屋内運動場 | 005 | 小学校 | 体育館 | RC | 1 | 578 | 1978 | S53 | 42 |
| 162 | 東部中学校 | 屋内運動場 | 006-1、2 | 中学校 | 体育館 | S | 2 | 754 | 1965 | S40 | 55 |
| 162 | 東部中学校 | 管理棟及び教室棟 | 007 | 中学校 | 校舎 | RC | 3 | 2,268 | 1976 | S51 | 44 |
| 162 | 東部中学校 | 教室棟 | 008-1 | 中学校 | 校舎 | RC | 3 | 1,163 | 1977 | S52 | 43 |
| 162 | 東部中学校 | 教室棟 | 008-2 | 中学校 | 校舎 | RC | 3 | 628 | 1977 | S52 | 43 |

4. 学校再編整備の方針について

(1) 再編新校での小中一貫教育

再編新校では、専門知識や経験が豊富な校長を小学校と中学校に配置し、2人の校長のリーダーシップと連携による「小中一貫型小・中学校」を設置し、計画的・段階的に小中一貫教育による学校づくりを進めていきます。

学校施設については、教職員や児童・生徒が交流・連携し、小中一貫教育の効果を最大限に発揮できるよう同じ敷地内に小・中学校の校舎を一体化した「一体型校舎」とします。



「小中一貫型小・中学校」のイメージ

(2) 再編新校の組み合わせ

再編新校の組み合わせは、東部小学校、金山小学校、西庄小学校および東部中学校の4校による小中一貫校の再編を行います。再編対象校となった学校は閉校し、小中一貫型小・中学校を新たに設置し、小中一貫教育を導入します。

(3) 再編新校の設置場所

再編新校の設置場所については、用地面積、人口密度、通学距離および周辺道路等、多面的に再編対象校4校の比較検討を行いました。

新たな学校用地を確保し校舎を建設する場合、立地条件の検討に始まり、用地の買収交渉や造成等に相当な期間が必要となることから、既存の学校用地に再編新校を設置することが現実的な選択と考えます。

- ①再編対象校である4校について、まず敷地の面積を比較すると、1番広いのは東部中学校、続いて東部小学校ですが、東部中学校は外周道路の道路幅が狭いことから、新規に建物建設を行う際は、外周道路の幅員を確保する目的で、セットバック^{注6}が必要となるため、東部小学校が敷地面積を1番広く使えることとなります。
- ②東部小学校は、中心市街地からも近く、再編対象地区の児童・生徒の多くが周辺に居住しています。
- ③東部小学校の敷地は、2車線の道路と接しているため、車やバスの送迎について、他の再編対象校より、工夫をすれば交通に関する問題は軽減できると考えています。

これらの点から、再編対象の4地区の中では、東部小学校の敷地が再編新校の設置場所として適地と判断し、再編新校の設置場所は、現東部小学校の敷地とします。

再編対象校の敷地面積等の比較

| 学校名 | 敷地面積 | 容積率 | 建蔽率 |
|-------|-----------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 東部小学校 | 17,149 m ² | 200% (34,298 m ²) | 60% (10,289 m ²) |
| 金山小学校 | 11,763 m ² | 200% (23,526 m ²) | 70% (8,234 m ²) |
| 西庄小学校 | 12,347 m ² | 200% (24,694 m ²) | 70% (8,642 m ²) |
| 東部中学校 | 18,188 m ² | 200% (36,376 m ²) | 60% (10,912 m ²) |

※東部中学校は、外周道路の拡幅が必要となるため、セットバック後は表示面積より狭くなります。

(4) 再編新校の校舎建設について

坂出市学校再編整備実施計画を策定後、令和6年度に再編新校（前期）建設基本計画を策定します。その計画を受けて設計・建設スケジュールおよび事業手法、業者選定方式を決定し、令和11年4月の開校をめざします。

開校までのスケジュール概要

| 年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | R11年度 |
|---------------|--------------------------|------|---------|------|-------|-------|
| 工程および 予定期間 | 事業者選定 建設基本計画 ▲業者決定 | | 設計、建設期間 | | | 開校 |

※令和7年度以降のスケジュールについては、建設基本計画を基に策定します。

(5) 再編新校の学校施設のコンセプト

「未来思考」で新しい時代の学び舎づくり ～ Schools for the Future ～

- ・ あらゆる空間（廊下も、階段、校庭…）が学びの場、表現の場、心を育む場
- ・ 横断的な学びや多目的な活動等、多様な学びが展開できる教室（柔軟性）
- ・ 時代の変化に対応できる、だれにもやさしい環境（可変性）

＜学び＞…個別最適な学びと協働的な学びのための、柔軟で創造的な学習空間の創出

- ・ 1人1台端末環境等に対応し、多様な学習を展開できる教室環境の整備
- ・ 協働的学習、個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる教室と多目的スペース
- ・ 自然とのつながりを感じ、観察力や環境への理解を深めるアウトドア学習スペース
- ・ アイディアを形にし、協力してプロジェクトを進めるクリエイティブスペース
- ・ インクルーシブ教育システムの構築と合理的配慮の提供
- ・ 多様な教育的ニーズのある児童・生徒への学習支援、教育相談等の環境整備

＜生活＞…新しい生活様式を踏まえ、健やかで温かみのある生活空間の創出

- ・ ロッカースペース等の配置の工夫等による教室空間の有効活用
- ・ 居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー）
- ・ 全室内空間の空調設備、トイレの洋式化（個室）・乾式化、手洗いの非接触化
- ・ 教職員がコミュニケーションやリフレッシュできるラウンジの整備

＜共創＞…多様な交流（多様な学年交流）、地域と連携・協働する共創空間の創出

- ・ 児童・生徒が所属感や自己有用感を育む異学年交流のための「共創空間」
- ・ 地域と連携・協働していく活動・交流拠点としての「共創空間」

＜安全・安心＞…子どもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境の実現

- ・ ユニバーサルデザイン（すべての人々にとって安全で快適な環境）による環境整備
- ・ 災害に対する安全性の確保と良好な避難生活を送ることができる学校施設の整備

＜環境＞…脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境の実現

- ・ Z E B^{注7}の推進（省エネルギー化、太陽光発電等）
- ・ 温かみがあり、快適で健やかな環境を生み出す木材利用の推進
- ・ 耐久性が高く、保守や清掃が容易な施設と効率的な維持管理システムの導入

＜小中一貫教育＞…小中一貫教育を効果的に実施できる施設環境の実現

- ・ 9年間の系統性・連続性のある教育課程のよさを最大限に発揮する教室環境と配置
- ・ 小中学校の教員の協働と連携のための執務室と研修施設の整備

＜さらに＞

坂出市のシンボル（美しい風景）となり、明日も通いたくなる魅力ある学校



＜参考＞「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」について（最終報告）、
学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議、令和4年3月

(6) 再編にあたっての留意事項等

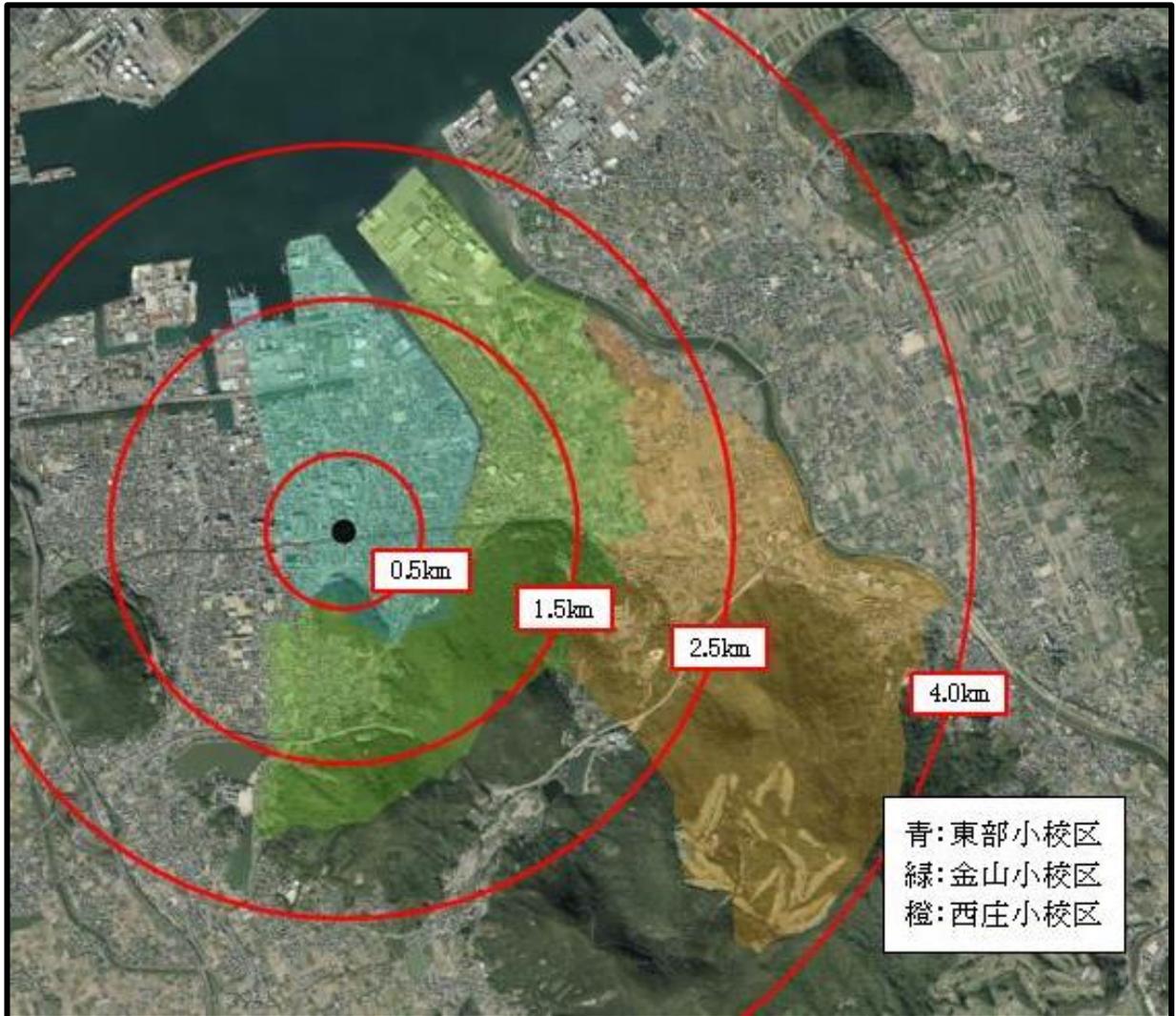
- 再編に伴う諸課題に対応するため、市教育委員会、学校、保護者、地域住民からなる「再編準備委員会（仮称）」を設置します。
- 再編新校開校時の学習や対人関係に対する不安を低減するため、事前に再編対象校同士が交流する機会を設けます。
- 再編後の校区は、校区審議会の答申を尊重しますが、小中ともに再編新校を校区とする見直しを校区審議会に諮問します。
- 校区の見直しに伴う経過措置や、通学の安全対策を検討します。
- 再編新校は、新たな校名とし、校章や校歌等も一新し、新校舎を建設します。
- 校舎の建設にあたっては、児童・生徒の安全や学習への影響に配慮し、可能な限り支障が生じないように努めます。一時的な移転が生じる場合には、保護者等と協議を進め、仮設校舎を建てることも検討します。
- 仲よし教室については、安全管理の面に配慮し、校舎内または敷地内等に開設します。

5. おわりに

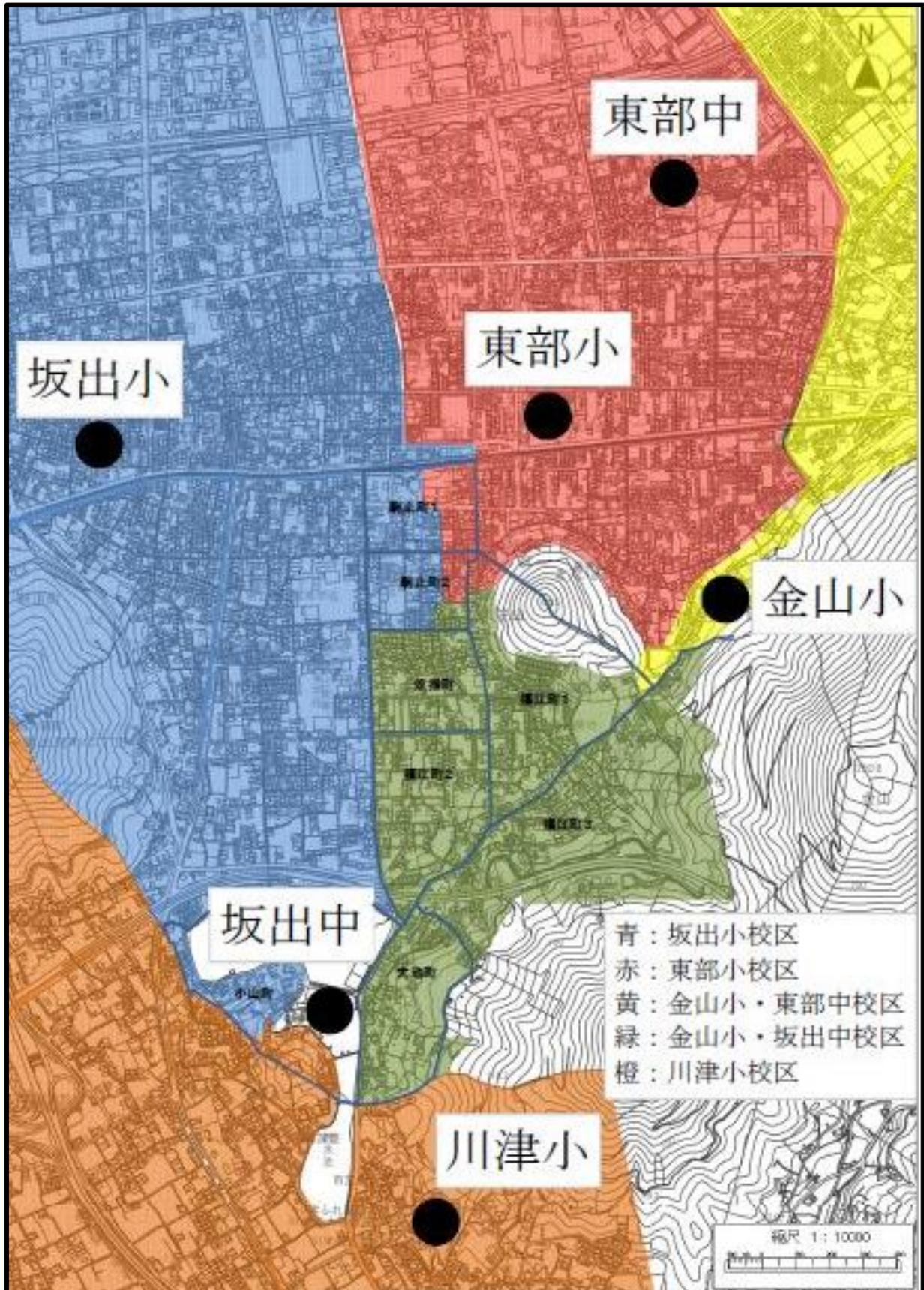
計画の実施に当たっては、諸課題について検討を行い、より良い学習環境を早期に整備することを目的として、円滑に再編を進め、新設校として開校できるよう努めてまいります。併せて、学校や保護者、地域の方々の意見も踏まえながら魅力的な学校づくりを進めます。

また、学校再編に向けた進捗状況等の情報を発信し、学校や保護者、地域の方々への理解を得るよう努めます。

1. 再編新校(建設予定地)に関する位置図



2. 坂出市立小学校区図(抜粋)



3. 用語集

| No | 用語 | 解説 |
|----|--------------|---|
| 1 | 人工知能 (AI) | コンピュータによる人間の知的活動を再現することを目標に発展した技術のこと。 |
| 2 | 情報通信技術 (ICT) | コンピュータを単独で使うだけでなく、ネットワークを活用して情報や知識を共有すること。 |
| 3 | Society5.0 | サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のこと。 |
| 4 | 令和の日本型学校教育 | <p>2020年代を通して、全ての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現をめざす教育のこと。「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び」…児童・生徒の特性や学習到達度に応じた「指導の個別化」と興味・関心等に応じた「学習の個性化」を大切にした学びのこと。 ・「協働的な学び」…子ども一人一人のよさや可能性を生かし、子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する学びのこと。 |
| 5 | 小中ギャップ | 子どもが小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活に不適応 (自尊心の低下、不登校、学習上のつまずき等) を起こすこと。 |
| 6 | セットバック | 建物を前面道路から後退 (セットバック) して建設すること。2項道路 (建築基準法第42条第2項の規定により道路であるものとみなされた幅4m未満の道) に面する土地では、一定の部分には建物を建築することができない。 |
| 7 | ZEB | Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略称で、「ゼブ」と呼ぶ。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることをめざした建物のこと。 |